

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2018

8

No.810

P2 特集①

働きやすさと働きがいの発信
～福祉の仕事の魅力を伝えよう～

P4 特集②

「地域包括ケアシステム」において期待されるケアマネジャーの役割

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」地域での支え合い

P7 みんなでつくるひょうごの福祉
暮らしやすい地域を目指して

P8 キラリ★社会福祉法人
社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団 おもちゃライブラリー

P9 私の物語
本人中心の支援と運動が、社会を変えていく
本條 義和さん(姫路市)

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション



伝統の技と
味わいが魅力の
手延そうめんだよ!



8月は「人権文化をすすめる県民運動推進強調月間」です。



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。





働きやすさと働きがいの発信 ～福祉の仕事の魅力を伝えよう～

仕事の内容や魅力を発信する取り組み

(福)三幸福社会(明石市)

特別養護老人ホームを運営している法人の特性を生かし、県立明石南高等学校総合学科と連携して、福祉の仕事を紹介する授業を実施。講師に介護職員を派遣し、単発や継続的な授業も含めて、年間約30コマの授業を担当している。

卒業生を介護職員として採用したことをきっかけに、法人として学校の力になれることはないかと提案を続け、授業への職員派遣が実現した。授業は、生徒が身近に感じられるよう、法人の中でも特に若手の職員が担当している。



若手の介護職員が生徒に説明



プロモーションビデオ(障害者施設編)の一場面

「福祉・介護の仕事」と聞いた時、多くの人が初めに抱くのは「大変な仕事」というイメージではないだろうか。福祉の仕事が就職先の選択肢に上がりにくく、人材確保が難しくなっている状況の中で、働いている職員を含めて、福祉現場から積極的に仕事の魅力ややりがいを発信していくことが大切である。

そこで、社会福祉法人や事業者団体などが取り組んでいるPR活動から、福祉・介護の仕事の魅力を発信するためのポイントを整理する。

福祉・介護の仕事のイメージ

過去に県社協が実施したアンケートでは、福祉の仕事は「しんどい」「難しい」仕事だと思ったり回答した人が8割を超えていた。夜勤による生活リズムの乱れや身体的な負担への懸念などから、多くの人は福祉の仕事に対して「大変だろう」というイメージを抱く場合が多いものと考えられる。

福祉介護の仕事をしている事業者は、このようなマイナスイメージを払拭できるほどの情報発信ができていくだろうか。

例えば、厚生労働省ではユースエール認定やくるみん認定、えるぼし認定など、若年者や女性の働きやすさを指標で表す制度があり、このような認定制度を積極的に活用していくことも大切である。また、福祉の仕事が持つ他の仕事では得られない魅力ややりがいを発信していくことも必要だ。以下では、県内で取り組まれている

県社協が取り組む福祉の仕事のイメージアップ

県社協では、多くの人が福祉の仕事に興味を持てるよう、イメージアップに向けたさまざまな取り組みを行っている。

一つ目は、実際に福祉の職場に行き現場の雰囲気や特色、職員の働く姿を見てもらう「福祉体験学習事業」である。高校生以上の福祉の仕事に関心がある方なら、県内の登録施設で職場体験ができる。

二つ目は、「福祉のしごと職場見学バスツアー」だ。一日に2カ所の施設をバスで巡り、施設見学だけでなく、職員との意見交換や利用者との交流ができる。

三つ目は、「プロモーションビデオの制作・広報」である。制作したビデオは、公式YouTubeに掲載し、働く職員の生の声をたくさん紹介している。本年度は神戸市内の映画館で半年にわたるCMを流し、情報を発信していく。

福祉職場からの発信のポイント

福祉・介護の仕事の実際や魅力を発信する時に大切なことは、「簡単な方法で情報が得られること」と「正確な情報発信」である。

前述の事例では、学生に身近な授業という機会を活用しており、情報を得る学生の負担が少ない。また、YouTubeなどのインターネットの活用も、知りたい時に即時に情報を届ける手法として有効だ。そして、正確な情報を伝えるには、仕事の様子を見てもらいその場で伝えることと、認定制度のように客観的な指標・数字を基に発信することが重要である。県内の福祉職場が、これらのことを意識して福祉の仕事の魅力を発信していくことが大切である。



兵庫県福祉人材センターで検索



介護の魅力がたっぷりつまったDVD等

兵庫県老人福祉事業協会 将来の担い手となる小学生や中学生に向けて、介護業務等の魅力を発信するためのDVD、リーフレットを作成した。

同協会では、協会認定のイメージアップ推進施設の職員がそのDVD等を活用しながら、小・中・高校で出前授業を行っているっており、年間100校以上の実施を目指している。

また、それに加えて、地域の民生委員・児童委員の会議等での啓発も行っている。

事業実施に当たっては、事前に学校と打ち合わせをし、学校のニーズに合わせたプログラムを作り、生徒の年齢に近い若手職員等が、直接「介護の魅力」を語っている。

情報発信の事例を紹介したい。

認定制度	ユースエール認定	くるみん認定	えるぼし認定
働きやすさの指標	若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良	次世代育成支援対策推進法に基づいた子育てサポート企業	女性の活躍推進行動計画を策定し、取り組みの実施状況等が優良
主な認定基準	○正社員の新規学卒等採用者の離職率が20%以下 ○正社員の有給休暇の年平均取得率が70%以上 等	○雇用環境の整備について行動計画を策定し、目標を達成した ○女性労働者の育児休業等取得率が75%以上 等	○管理職に占める女性労働者の割合が、産業ごとの平均値以上 ○女性の非正規社員から正社員への転換の実績 等
県内の社会福祉法人数	1カ所	4カ所	1カ所



「地域包括ケアシステム」において期待されるケアマネジャーの役割

平成12年の介護保険制度の開始以降、ケアマネジャー（介護支援専門員）は高齢者一人一人の相談を受け止め、ケアプランの作成やサービス調整を通じ、その人らしい暮らしを支えている。少子高齢化の進行や社会的孤立などを背景に、地域に暮らす高齢者の生活・福祉課題も多様化・複雑化していることから、地域包括ケアシステムの構築に向け、各地で専門職と地域住民の協働が進んでいる。今号では、このような時代に期待されるケアマネジャーの役割について考えたい。



一人一人に寄り添ってきたケアマネジャー

認知症で一人暮らしを続ける人、ガン末期でターミナルケアが必要な人、親の介護で離職を迫られる人など、地域にはさまざまな生活・福祉課題を抱えた人々が暮らす。介護保険制度の開始以来、こうした利用者・家族の一人一人に寄り添ってきたケアマネジャーは、「生活の安定には医療連携が欠かせない」「介護保険サービスだけでは日々の暮らしを支えきれない」等の現実に直面してきた。



高い専門性が求められるケアマネジャー。県域・ブロック域でさまざまな研修が実施されている

個別ケースから地域課題を見出す取り組み

このように高度な専門性を求められるケアマネジャーが各地で取り組んでいるのが事例検討だ。中でも、ケアマネジャーが個人の生活・福祉課題に対応する事例検討だけにとどまらず、地域課題を見出し、解決に向けて地域と協働する動きが広がってきている。一例として、朝来市で地域ケア会議の一環として開催される「ケアマネジメント支援会議」を紹介する。

事例（朝来市）
ケアマネジメント支援会議

朝来市では、「良い支援を受けた援助者は、良い支援が提供できる」という考えの下、ケアマネジャーが支援に困難を感じる事例を検討する場として、平成25年から「ケアマネジメント支援会議」を開催。市の地域包括支援センターのほか、市内10カ所の居宅介護支援事業所でも開催している。

同市では、地域ケア会議の義務化以前、平成19年に自主的に事例検討会が始まり、ケアマネジャーたちは、複合多問題や制度の狭間の支援を経験し、家族や地域を把握する重要性に気付いたという。その流れを受け継ぐケアマネジャー支援会議では、事例をひもとき、集約することで地域の共通課題を見出し、また、政策提言を行う「地域包括ケアシステム推進会議」に課題を提起しながら、解決に向けた仕組みづくりや資源開発につなげてきた。

例えば、「服薬管理が難しい高齢者が多い」という気付きから、薬剤師と協働で正しく薬を飲むための啓発リーフレットを作成し、地域ケアスタッフを対象に服薬管理をテーマに研修も開催した。

また、認知症をめぐる住民の理解促進や徘徊の課題には、宅配業者等との見守りネットワークの締結、住民と協働した声掛け訓練の実施、情報提供のケーブルテレビ「脳元気テレビ」の放送、GPSレジャー事業の創設などにつなげた。

このように朝来市では、ケアマネジャーたちの事例検討を起点に、多職種や地域住民と協働するチャレンジを次々と生み出してきている。



事例をめぐってさまざまな視点から意見交換。「私の支援事例」から「私たちの支援事例」へ

これからのケアマネジャーに期待される役割

連携と協働で地域課題に対応

朝来市の実践は、事例検討を通じて課題解決につなげた体験を共有し、残る課題はネットワークづくりや、市の中枢的な会議への提起につなげ、個別課題の解決と地域課題の見える化を同時に進める取り組みだ。見えてきた地域課題には、医療等の専門職との連携や、事業者・住民組織などの多様な主体との協働で「地域丸ごと」で対応する仕組みづくりにつなげる点が実践のポイントである。

このように、個別の支援事例に向き合いながら、社会資源の開発や地域づくりに寄与することは、これからのケアマネジャーに期待される大きな役割だと言える。

利用者や地域が力を発揮できる関わりを目指して

ケアマネジャーが専門性を高め、地域の連携・協働の支援体制づくりに参画しつつある今、利用者・家族

の体制整備が進み、高齢分野に限らず、障害者福祉、生活困窮者支援の分野でも協議体が設置されている。このような情勢の中、ケアマネジャーには地域の課題や必要な社会資源について利用者を代弁し、かつ専門職として発信することが求められる。

つまり、個別支援に加え、利用者が暮らす「地域」へのアプローチもケアマネジャーの重要なテーマになってきたと言える。

をエンパワメントし、利用者主体の支援を探っていくのが改めて問われている。認知症高齢者の一人暮らしは不可能か、「ガン末期患者の在宅での看取りは不可能か」「介護離職は避けられないのか」。ケアマネジャーに期待される役割が広がる今こそ、望む暮らしを諦めそうになる利用者に寄り添い、利用者主体の支援にこだわるのが大切だ。

また、朝来市地域包括支援センターの足立里江さんが「利用者を支える人材の育成に加え、今後は専門職と地域住民が共に考える場づくり・地域づくりに力を入れたい」と展望を話すように、地域の声に耳を傾け、地域の課題をみんなの「我が事」として一緒に考えることも重要だ。

地域を駆け巡りながら専門職・住民主体の活動とつながり合うこと。暮らしの困り事を地域住民と共に考えること。何よりも利用者に寄り添って力づけること。

自らも元気づけられながら、利用者や地域の力を引き出した支援をいっそう展開していくことが、これからのケアマネジャーには期待される。

今回は、高齢化が進んでいる新温泉町前区で、
 いろんな居場所づくりを通じた支え合いの地域づ
 くりを進めている取り組みを紹介するよ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする
 取り組みを紹介します。

居場所づくりは、地区の役員が中
 心になって実施しており、毎週木曜
 日の「いきいき100歳体操」の他
 に、月1回の「ふれあいいきいきサ
 ロン、学習会」など公民館を中心
 に開催している。どの活動も誰もが自
 由に参加、自由に過ごすことができ
 るので、負担感を感じることなく、
 楽しく話したり、さまざまな知識を
 身につけたり、運動したりと多くの
 住民が集まって楽しい時間を過ご
 している。最近では、参加者が、まだ
 活動に参加していない隣近所の人

高齢化した地区の地域づくり
 新温泉町前区は、山間部に位置す
 る人口84人、30世帯の高齢化率52.
 5%の地区である。地区の若者は
 年々減少しており、高齢化が大きな
 課題となっている。
 そのような中、同地区では、すべ
 ての住民ができる限り住み慣れた
 地域で、不安なく、孤独感なく暮ら
 せるように、誰もが参加できる「居
 場所づくり」を進めることで、日常
 から自然に住民ならでの見守り、
 助け合いができることを目指して
 いる。

暮らしやすい地域を目指して

住民の心の変化
 参加者は、認知症の人、身体が不自
 由な人、若者から高齢者などさまざ
 まであり、一緒にこのような時間を
 過ごすことで、支え合いの必要性を
 改めて感じている。少しずつではあ
 るが、相手の不自由を知るとともに、
 いつの間にかお互いの心もつながっ
 てきている。また、生活する中での悩
 み事や、心配事がある場合には一人
 で抱え込まず、お互いに相談する関
 係性もできつつあり、自然に助け合
 うようになってきている。本年度初
 めには、住民が日々安心・安全に暮ら
 せることを目的に、住民主体で組織
 する「前区安心・安全ネット」たすか



いきいき100歳体操で体を動かす



会話がはずむ料理教室

る」を結成。まずは地区の様子を共
 有するマップ作りを行った。
 現在、これらの活動に協力・参加
 する住民の大半は高齢者で、高齢者
 が高齢者を支え合う地域であるこ
 とから、今後は若年の住民をどのよ
 うに巻き込んでいくかが課題であ
 る。前区では引き続き、こうした課
 題にも取り組みながら「くらしやす
 い地域、心配りができる地域を目
 指して中村区長と民生委員・児童委
 員を中心に住民全体で進めていこ
 うとしている。

取材を終えて

今回の取り組みから、高齢化が深刻化している地
 区の地域課題を解決するために、住民全体で支えあ
 い、「できる限り住み慣れた地域で暮らせる地域づく
 り」を進めることの大切さが伝わってきました。

(連絡先) 社会福祉法人新温泉町社会福祉協議会
 美方郡新温泉町湯1019
 TEL:0796-99-2488



「ストップ・ザ・無縁社会」
地域での支え合い
<http://stop-muen.jp>

TOPICS

「支え合い社会」県民フォーラム 開催予告 「地域での支え合いをすすめよう！」

参加
 無料

近年、つながりの希薄化や社会的孤立、経済的困窮が課題となる中、
 地域共生社会の実現に向けて県内各地でさまざまな支え合い活動が進
 められています。「地域での支え合いをすすめよう！」を合言葉に、つな
 がりや絆が大切にされる「支え合い社会」をみんなで考える場として、県民
 フォーラムを開催します。



- 日時** 平成30年8月28日(火) 13:00~16:30
- 会場** 神戸芸術センター 芸術劇場(神戸市中央区)
- 対象** 「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの趣旨に賛同する方
- 定員** 800人
- 内容**
 - 記念講演 「家族との関わり～母として・娘として～」
 講師:綾戸 智恵氏(ジャズシンガー)
 - パネルディスカッション 「交流と支え合いの輪を広げよう」

地域の居場所づくりを通じて交流を生み出し、支え合い活動を展開する住民主体の地域福祉実践の報告を受け、
 社会的孤立の防止や身近な地域のつながり・支え合いの大切さについて考えます。

- パネリスト** 入江 一恵氏(NPOひまわり会 理事、明石市)
 丸野 登志子氏(特定非営利活動法人灘水仙の里 代表、南あわじ市)
 上野 武利氏(社会福祉法人西宮市社会福祉協議会 事務局長)

コーディネーター 松原 一郎氏(関西大学社会学部 教授)

申込方法

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンのWEBサイトに掲載の「チラシ・申込書」に必要事項をご記入の上、下記
 事務局までFAXでお申し込みください(WEBサイト:<http://stop-muen.jp/>)。
 事務局:兵庫県社会福祉協議会 企画部
 TEL:078-242-4636 FAX:078-242-4153

コミュニティカフェの開設や地域の居場所づくりを応援します!

住民同士の見守り・支え合い活動の第一歩として、コミュニティカ
 フェの開設や地域の居場所づくりを進めていくことが大切です。
 本年度も、住民同士の交流や支え合いの場となる「コミュニティカ
 フェ」の開設を応援する助成事業を予定しています。助成金は、コ
 ミュニティカフェを開設する際の施設改修・備品購入・広報にかかる
 経費や、開設に向けた講座等の開催経費に活用していただけます。
 詳細は、各市町社協へご案内いたします。



飯見元気プロジェクト運営委員会(宍粟市)
 エアコンを新設し、住民が集まりやすい交流拠点を整備しました



このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

本人中心の支援と運動が、社会を変えていく

ほんじょう よしかず
本條 義和さん
(姫路市)

Personal History

昭和24年 夢前町に生まれる
平成18年 公益社団法人兵庫県精神福祉家族会連合会 会長
平成26年 公益社団法人全国精神保健福祉会連合会 理事長



継続は力

私のモットー

その後、私は社会人となって働いてきましたが、50歳ごろの平成12年に転機が訪れました。夢前町や姫路市内の家族と家族会を結成し、「しらすぎ作業所」を立ち上げました。理念に「利用者本位」を掲げ、飲食店や学習塾での作業をはじめ、県内初のメール便配達など、

本人中心の支援と運動

私の母親が、今でいう統合失調症でした。私が幼少の頃、物心がつくくらいには、母の独り言や空笑いに少しおかしいなと感じていました。服装も友達の母親とはちよっと違う独特なセンスをしていました。また、6人きょうだいの長男には重度の知的障害があり、子どもながらに社会の誤解や偏見を感じるがありました。それでも、私にはかけがえのない家族ですし、他の家族を体験できませんから、自分の家族との生活が普通の暮らしでした。

障害のある家族との暮らし

全国では、近年、「精神障がい者にも他障害同等の交通運賃割引の適用を求める全国運動」を展開。昨

運動の継続が社会を変えていく

自立と社会参加、就労を柱に先駆的な取り組みを進めてきました。この一方、社会全体として精神障害分野の制度・施策の遅れを感じていました。例えば、各自治体が行う重度・心身障害者医療費の助成です。身体・知的障害者は対象なのに精神障害者は対象外となる。「これは、おかしい」と旧夢前町の町長に直談判して平成13年度に助成対象の拡充につながりました。その後、県内でも同様の動きが広がり、現在は精神障害者も対象となっています。その他、バスの補助やタクシー利用など制度の拡充に力を注いできました。

精神障害の本人とその家族は、「周囲に知られたくない」という思いを抱えています。だから、意見を表明しにくい。私は、本人と家族の思いを受け止め、代弁することを大切に活動しています。

第11回全国精神保健福祉家族大会 in 兵庫

テーマ:精神疾患の本人と家族の明日を切り拓くために
日程:11月26日(月)・27日(火)
会場:神戸ポートピアホテル他
対象:県民、福祉関係者など
参加費:一般3,000円、学生1,000円、当事者500円
事務局:兵庫県精神福祉家族会連合会
TEL:078-891-3871

また、今年4月から精神障害者を含めた法定雇用率が2.2%に引き上げられました。精神障害者の就労支援、職場環境の整備、働き方など、国の労働政策審議会で本人を中心に据えた政策になるよう積極的に提案しています。

障害者差別への理解が徐々に広がる中、子どもへの教育が特に重要です。障害の有無に関わらず、人にはさまざまな個性があり、認め合うことが大切です。一人一人が力を十分に発揮できる環境を整えていくことが、地域共生社会につながるかと考えています。

Q2.どのように活動を進めていますか

A2.開設当初は手探りの状態でしたが、誰でも参加できるイベントや活動を町内会の回覧で案内するなどして、口コミを中心に利用者が増えてきました。イベントには、地域の幅広い世代の方々をはじめ、施設に入居する方(以下、「入居者」とその家族も参加しています。また、展示コーナーには月替わりで地域のサークルや学校の写真や絵画などが展示されています。

常に開放しているおもちゃライブラリーには、ほぼ毎日、近所の子どもと母親が遊びに来ます。ある母親からは「誰でもいつでも来ることができてありがたい」との声が寄せられています。週末には父親の姿も。さらに、入居者が孫やひ孫と一緒に遊んだり、地域の方が作品鑑賞に訪れるなど、さまざまな方が集い、交わる場所になっています。



常連の子どもと入居者がハイタッチ!

Q1.取り組みのきっかけは

A1.施設建設前の住民説明会等で、地域から、①子どもの遊び場所、②住民の避難場所、③住民が自由に出入りできる場、の3つの期待が寄せられました。

そこで、市から福祉避難所と併せて緊急避難施設の指定を受けたほか、誰もが利用しやすい場所として「ひょうご県民ユニバーサル施設」にも認定されました。子どもの遊び場のため、1階には開放的なスペースを確保。助成や寄贈を活用して「おもちゃライブラリー」を開設し、子どもをはじめ、地域の方が自由に使えるスペースとしました。

2階も同様に、「語らいコーナー」や「展示コーナー」などを設け、地域の方が自由に訪れ利用することができるスペースになっています。

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

キラリ★社会福祉法人★

～社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団～

おもちゃライブラリー

「“つながろう”人と地域と くにうみの里」をキャッチフレーズに、平成28年11月にオープンした特別養護老人ホームくにうみの里。

今回は、このキャッチフレーズを実現するために、多世代が交流できる地域の拠点となるべく、模索しながら実践を重ねている取り組みを紹介します。

入居者や地域の方が集まって「ボンボン船づくり」を楽しむ



Q3.今後、どのように進めていきたいですか

A3.施設に来た子どもたちにとって、入居者は「地域のおじいちゃん、おばあちゃん」。見守ったり教えたりする役割を担っています。

施設が持つ資源を地域の方々に活用してもらうことで、施設を身近に感じてもらうとともに、施設職員にも地域のことを知ってもらいたいと考えています。将来的には、高齢者や障害者、子どもから大人まで、あらゆる世代がつながる地域の見守り・交流拠点を見据えています。自施設だけでできることは限られていますので、地域の方々とご近所付き合いをしながら、お互いの役割を補い合える関係を築きたいです。

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
特別養護老人ホーム くにうみの里
洲本市下加茂1丁目6-6
TEL:0799-22-3344
URL:<http://www.hwc.or.jp/kuniumi/>

【速報】平成30年7月
豪雨災害の支援活動

台風7号および梅雨前線活動の活発化の影響により、西日本を中心に甚大な被害が発生。県内でも被害が発生し、兵庫県は次の9市6町に災害救助法を適用した。

【適用日】5日 豊岡市、篠山市、朝来市、宍粟市、上郡町、香美町
【同日6日】姫路市、西脇市、丹波市、多可町、佐用町
【同日7日】養父市、たつの市、市川町、神河町

県内では、丹波市社協が災害ボランティアセンターを開設（9日〜17日）するなど、被害が発生した各地の市町社協において支援活動が進められている。

県外の被災地支援に当たって、7月16日から県社協職員1名と市町社協職員4名を岡山県倉敷市に派遣した。また、ひょうごボランティアプラザは、岡山県内の被災地状況を調査するとともに、14日に総社市へボランティアバスを実施した。現在は、全国の社協ネットワークにより被災地での支援活動が展開されている。

大阪北部を震源とする
地震の支援活動

6月18日、大阪府北部の深さ約13kmを震源とするマグニチュード6.1の地震が発生。大阪府は12市1町に災害救助法の適用を決定した。県内でも負傷者が出たほか、住家被害などがあつた。

被害を受けられた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

被災地支援レポート

ひょうごボランティアプラザでは6月21日の被災地調査をはじめ、大阪府社協や地元市社協と相談し、30日に高槻市災害ボランティアセンターで事務局運営支援と被災者ニーズ調査を行った。

当日は、災害ボランティア熟練者、兵庫県災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議メンバー（災害救援NPO、コープこうべ、大学コンソーシアムひょうご神戸、神戸大学、県立大学大学院、兵庫大学、神戸市社協、ひょうごボランティアプラザ）等18名が参加。災害ボランティアセンターでの受け付けや

平成29年度県社協の
事業・決算報告

県社協では、6月8日に第254回理事会、6月25日に第194回評議員会を開催し、事業報告と決算が承認された。概要は次の通りである。

「ストップ・ザ・無縁社会」
全県キャンペーンの展開

支え合い社会の実現に向けて、「支え合い社会」県民フォーラムを新たに開催するとともに、各市町での「地域フォーラム」の開催を支援した（11団体）。また、兵庫県「ふるさとひょうご寄付金」を原資に「コミュニティカフェ」を開設する9団体に助成し、地域での居場所づくりを支援した。

県社協アクションプランに
基づく取り組み

Action 1 市町社協と共に地域福祉の
基盤づくりを推進

市町社協の組織基盤強化に向け、社協ワーカー実践研究会や社協組織のマネジメントを学ぶ研修を開催した。また、「地域共生社会づくり」に向けた市町域での対応方策や

Action 3 「総合相談・生活支援」の充実
と体制強化を支援

市町域での権利擁護体制の充実に向け、市民後見人養成の研修や会議の開催、若年性認知症当事者の活動支援等に取り組んだ。

また、生活福祉資金貸付事業や日

Action 2 地域福祉を進める組織・
福祉専門職養成を支援

社会福祉法人の経営計画策定支援のツールとして、「社会福祉法人経営計画策定ワークブック」を新たに作成した。また、地域公益活動の全県普及に向け、各市町の社会福祉法人連絡協議会が集う代表者連絡会等を開催した。

福祉人材確保に向けて、就職総合フェアのほか、職場見学ツアー、シネアド上映、民間就職フェアでの出展等を通じ、福祉の仕事のイメージアップに取り組んだ。

また、地域福祉研修や管理職研修の充実を図るとともに、職場研修支援事業の継続実施により、職員の定着と専門性の向上を支援した。

Action 3 「総合相談・生活支援」の充実
と体制強化を支援

市町域での権利擁護体制の充実に向け、市民後見人養成の研修や会議の開催、若年性認知症当事者の活動支援等に取り組んだ。

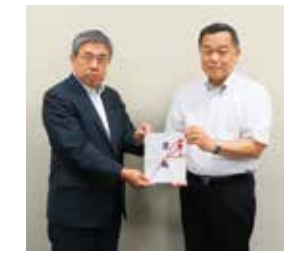
また、生活福祉資金貸付事業や日

ニーズ整理、被災者宅を訪問しての聞き取りやポスティングによるボランティアセンターの周知、被災者のニーズ調査、家屋整理等の支援を実施した。



災害支援金の贈呈

7月4日、大阪府内の支援活動に役立てていただくとうと、県社協の福田副会長兼常務理事（写真右）から大阪府社協の小西会長（写真左）に災害対策支援金を贈呈した。



社協事務局長が社会福祉
政策への提言等を協議

6月19日、県福祉センターで県内社協事務局長会議が開催された。会議では、平成29年度に作成した「地域福祉政策研究会中間まとめ」の内容を踏まえ、地域共生社会づくりに向けた社協の対応と、兵

Action 4 幅広い主体や社会資源が
つながる地域づくりを支援

ボランティア活動を行う団体等のポータルサイト「コラボネット」の充実、県民ボランティア活動助成の

常生活自立支援事業に関する研修や会議を開催し、市町社協における相談支援の向上に取り組んだ。

一般会計資金収支計算書

区分	収支	一般会計	資金収支内訳表			
			社会福祉事業	公益事業	収益事業	内部取引消去
事業活動による収支	収入 1,222,415 支出 1,325,061	1,222,415 1,325,061	406,229 453,902	796,845 864,319	40,585 28,084	-21,245 -21,245
事業活動資金収支差額	△ 102,645	△ 102,645	△ 47,673	△ 67,473	12,500	0
施設整備等による収支	収入 0 支出 5,691	0 5,691	0 3,421	0 2,269	0 0	0 0
施設整備等資金収支差額	△ 5,691	△ 5,691	△ 3,421	△ 2,269	0	0
その他の活動による収支	収入 6,813,592 支出 4,952,938	6,813,592 4,952,938	628,398 521,777	6,290,102 4,523,568	0 12,500	-104,908 -104,908
その他の活動資金収支差額	1,860,654	1,860,654	106,621	1,766,534	△ 12,500	0
当期資金収支差額合計	1,752,317	1,752,317	55,526	1,696,791	0	0

生活福祉資金会計資金収支計算書

区分	収支	生活福祉資金会計	生活福祉資金(災害)会計	生活復旧資金会計	要保護世帯向け 不動産担保型 生活資金会計	生活福祉 資金貸付 事務費会計	臨時特例 つなぎ 資金会計
事業活動資金収支差額	235,948	235,948	5,383	98	△ 25,918	△ 177,413	△ 8,572
施設整備等による収支	収入 0 支出 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2,849	0 0
施設整備等資金収支差額	0	0	0	0	0	△ 2,849	0
その他の活動による収支	収入 6,035,012 支出 6,035,339	6,035,012 6,035,339	0 6,213	0 60	12,968 291	181,681 1,418	0 0
その他の活動資金収支差額	△ 326	△ 326	△ 6,213	△ 60	12,676	180,262	0
当期資金収支差額合計	235,621	235,621	△ 830	38	△ 13,242	0	△ 8,572

庫県の社会福祉政策への提言内容を協議した。

社会福祉政策への提言については、本年度は各ブロックで社協会長らが協議し、それらの意見を県社協が集約した上で、事務局長会議で議論を行った。政策提言に向け、他市町社協を交えて協議を重ねることの意義が確認された。

また、「地域共生社会」実現に向けた市町村の責務が法に明記されたことから、共生の地域づくりを進める上での体制整備がますます重要になる。会議では、社協全体で住民主体の地域づくりと包括的支援体制づくりに向けた取り組みを進めることが確認された。



実施を通じ、ボランティア活動への支援を進めた。

また、被災地「絆」ボランティア活動支援事業を新たに実施し、熊本地震等への継続的な支援を行うとともに、10月1日に兵庫県に設置された「兵庫県災害福祉広域支援ネットワーク」に協力した。

INFORMATION

助成金情報

県社協「ひょうごボランティアプラザ」のWEBサイト (<https://www.hyogo-vplaza.jp/>) では助成金情報を多数掲載しています。ぜひご利用ください。

一般社団法人生命保険協会 元気シニア応援団体に対する助成活動

高齢者が健やかで心豊かに生活できる地域社会の環境整備のために、助成します。

対象 高齢者を対象にした健康管理・増進、自立支援、生きがいづくり等の活動を行っている民間非営利の団体、ボランティアグループ、特定非営利活動法人等

助成額 1団体上限12万円(総額最大500万円)

締切り 平成30年8月17日(金)消印有効

④ ⑤ 一般社団法人生命保険協会
TEL 03-3286-2643

URL <http://www.seiho.or.jp/>

公益財団法人大阪ガスグループ福祉財団 高齢者福祉助成

活力あふれる長寿社会を実現するため、助成を行います。

対象 高齢者を対象とする地域福祉活動や高齢者自身の社会参加活動あるいはそれを支援する活動等で、兵庫県、神戸市等の社会福祉協議会の推薦を受けた活動 ※法人格の有無は不問

助成額 1件上限15万円(総額950万円)

締切り 平成30年8月31日(金)必着

④ ⑤ 公益財団法人大阪ガスグループ福祉財団
TEL 06-6205-4686
各社会福祉協議会

URL <http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/fukushi/>

兵庫県健康福祉部 「子ども食堂」応援プロジェクト補助金

新たに「子ども食堂」を開設し、事業の立ち上げに必要な経費の補助を希望する団体を募集します。

対象 「子ども食堂」応援プロジェクトの事業概要に定める「子ども食堂」を立ち上げる団体

助成額 1団体上限20万円

締切り 平成30年9月28日(金)必着

④ ⑤ 兵庫県健康福祉部社会福祉局生活支援課

TEL 078-341-7711(内線3007)

URL <https://web.pref.hyogo.lg.jp/>

募集

心の輪を広げる体験作文

障害のある人への県民の理解を促進するため、「心の輪を広げる体験作文」を募集します。

対象 兵庫県内(神戸市を除く)に在住または在学する小学生以上の者(特別支援学校の小学部、中学部および高等部の児童生徒を含む)

締切り 平成30年9月6日(木)必着

④ ⑤ 兵庫県健康福祉部障害福祉局障害福祉課
TEL078-362-3194

URL <https://web.pref.hyogo.lg.jp/>

障害のある子どもたちの絵画コンクール 「第17回キラキラとアートコンクール」開催

障害のある子どもたちの可能性を応援します。

対象 何らかの障害のある18歳までの幼児・児童・生徒

応募作品 水彩、油絵、版画など平面表現のもの

締切り 平成30年9月7日(金)必着

④ ⑤ キラキラとアートコンクール事務局
TEL03-5988-0523

URL <https://kira-art.jp/>

ヤマト福祉財団「小倉昌男賞」

障害者の雇用創出、拡大、労働条件の改善などを積極的に推し進め、障害者に働く喜びと生きがいをもたらす人を応援します。

対象 国内在住で、障害者福祉施設や民間企業の労働現場などで、障害者に働く機会を提供している人(その他条件あり)

賞 ブロンズ像、賞金100万円(2名以内を予定)

締切り 平成30年9月15日(土)

④ ⑤ 公益財団法人ヤマト福祉財団事務局
TEL03-3248-0691

URL <https://www.yamato-fukushi.jp/>

行事予定

8月 6日 地域福祉研修(全4日)

◆県社会福祉研修所

7日 保育リーダーゼミナール(全4日)

◆県社会福祉研修所

10日 低所得世帯の進学支援フォーラム

◆神大コンベンションホール

17日 福祉のしごとと職場見学バスツアー(中播磨・西播磨コース)

◆ほうらいの里・ほおずき姫路
20日 前頭側頭型認知症家族交流会
◆県福祉センター

21日 福祉のオシゴトはじめてガイダンス
◆ハローワーク神戸

28日 「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会総会・「支え合い社会」県民フォーラム
◆神戸芸術センター

30日 経営計画策定リーダー養成ゼミナール(全5回)

◆原田の森ギャラリー

31日 福祉のしごとと職場見学バスツアー(丹波・北播磨コース)

◆おがわの里サポートセンター・passo

9月 6日 地域福祉専門ゼミナール(全4日)

◆県社会福祉研修所

7日 OJTリーダー養成研修(実践編)(全2日)

◆県社会福祉研修所

12日 新任職員ステップアップ研修Aコース

◆県社会福祉研修所

福祉のオシゴトはじめてガイダンス
◆ハローワーク神戸

14日 チーム・マネジメントリーダー研修Bコース(全2日)

◆県社会福祉研修所

福祉のしごとと職場見学バスツアー(阪神コース)

◆あそか苑・グッドタイムリビン グ尼崎

18日 障害リーダーゼミナール(全4日)

◆県社会福祉研修所

21日 福祉のしごとと職場見学バスツアー(東播磨コース)

◆バンビ第二保育園・聖パウロこども園

24日 民間社会福祉事業職員互助会バレーボール大会

◆ワールド記念ホール

25日 経営計画策定普及セミナー

◆県福祉センター

会計実務担当者研修(税務編)

◆県立のじぎく会館

27日 チームアプローチ実践研修

◆県社会福祉研修所

29日 福祉のしごとと職場見学バスツアー(神戸コース)

◆神戸まどか園・真愛ホーム

温泉と旨いもんでおもてなし

湯量豊富な天然温泉とボリューム満点のお料理でリフレッシュ



露天風呂は男女入れ替え制となります



写真は「特別会席プラン」の一部です

特別会席プラン

平日1泊2食 1室2名様利用
60歳以上のお客様価格

<8月・9月・10月平日限定企画>
広告持参のお客様は、更に
下記金額より1,000円引き!

13,750円 (税込)

その他、保養荘の四季折々の情報など発信しております。
ぜひ、公式サイトをご覧ください!



浜坂温泉保養荘 TEL:0796-82-3645

〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775
<http://www.hamasaka-ni.com/>